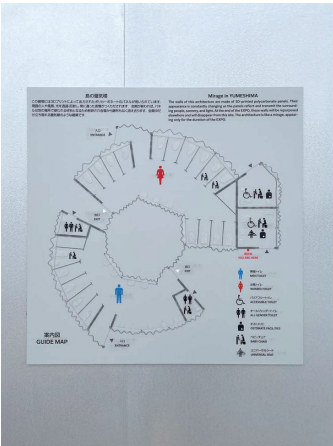


2025年日本国際博覧会 トイレ7



外観

日本国際博覧会において、若手建築家が設計したトイレ施設のひとつ。3Dプリントされた湾曲した樹脂パネルが周辺の風景や光を不規則に反射し、蜃気楼のように景色を移し込み、広場に溶け込むような建築となっている。



案内図

案内図はわかりやすいピクトグラムを用い、ひと目で全体像と仕様を理解することができ、視覚障がい者に配慮して触知図としている。また男女別トイレは、入口と出口を分けて一方通行の動線としている。



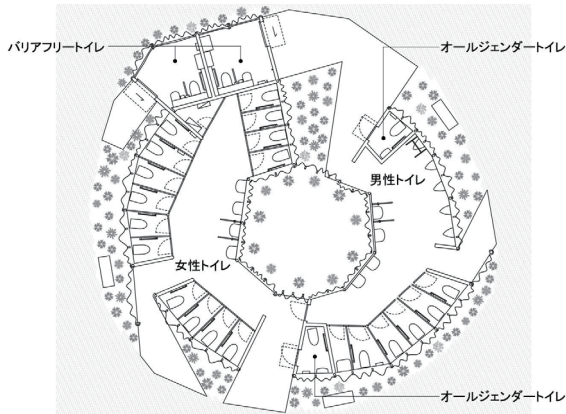
男女トイレ 入口



時間帯により見え方が変わる、湾曲した樹脂パネルが特長的なトイレ入口。透明ではあるが、積層の厚みや色合いにより重なり合うパネルが、外部からの視線を緩やかに遮断している。

図面

万博会場のウォータープラザという広場に位置。多様な利用者に配慮し、男女別トイレやバリアフリートイレ、オールジェンダートイレを配置。男女別トイレは、入口と出口を分けた一方通行の動線としている。



女性トイレ 全体

建物の素材感を活かし、外部からの採光がたっぷりと入る、明るく開放的なトイレ空間。



女性トイレ 大便器ブース

男女トイレともに大便器は、コンパクトで清掃性のよいパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式を設置。さらに、ウォシュレットアプリコットPを採用し、利用者の快適性に配慮している。



男性トイレ

男性トイレも、たっぷりと採光が入る。小便器は、節水性と清掃性のよい、壁掛型の自動洗浄小便器を採用している。



バリアフリートイレ 入口

バリアフリートイレ入口に、配慮対象者をピクトグラムで掲示し、多様な利用者がひと目でわかるよう配慮している。



バリアフリートイレ

バリアフリートイレ内には、車いす利用者やオストメイト、大型ペット使用者に配慮した設備を完備している。



オールジェンダートイレ

性別を問わずに利用可能なオールジェンダートイレを、2ヶ所配置している。

水まわりの特長

建物の特徴

5年に一度世界1ヶ所のみで実施される国際的イベント「国際博覧会」が大阪市内の夢洲（ゆめしま）で開催。会場内の休憩所やトイレなど計20施設を、公募型プロポーザルにて若手建築家が設計。「トイレ7」は、そのひとつである。外周を湾曲した3Dプリント樹脂パネルで覆うことで、周辺の風景や光を不規則に反射させ、蜃気楼のように景色を映し込み、広場に溶け込んでいる。同時にパネルは光を透過させ、トイレ空間に光に満ちた。パピリオンのような強い象徴性を示す存在ではなく、人や自然環境が寄り添うことで表情が変わるような建築を目指した。会期後、樹脂パネルは粉砕・再加工され、形を変えながらさまざまな場面で使われることを想定している。

トイレの特長

中庭を中心に円環状に配されたトイレは、光に満ちた空間。設備仕様は、多様な利用者に配慮した設計となっている。構成は、男女別トイレのほか、左右勝手違いのバリアフリートイレを2ヶ所、オールジェンダートイレを2ヶ所設置。男女別トイレは、入口と出口を分けた一方通行の動線としている。器具はパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式やウォシュレットアプリコットP、自動洗浄小便器を設置し、衛生面と利便性に優れた空間を実現。バリアフリートイレには、さまざまな身体状況の方に対応できるコンパクト・バリアフリートイレバックを設置。さらに、パブリック用折りたたみシートやベビーチェアも完備。多様な利用者を想定した設備が整えられている。

建築概要

名称	2025年日本国際博覧会 トイレ7
所在地	大阪府大阪市此花区夢洲中1-1-20 (2025年日本国際博覧会会場内)
施主	公益社団法人2025年日本国際博覧会協会
設計	鈴木 淳平+村部 壘+溝端 友輔／ PONDEDGE+farm+株式会社 NOD
竣工年月	2025年2月
延床面積	100.81㎡
構造・階数	鉄骨造・地上1階
おもなTOTO使用機器	
パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498B	
ウォシュレット アプリコットP(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5831AUP	
自動洗浄小便器:UFS900WR	
コンパクト・バリアフリートイレバック:UADAK21R1A1ADD2B	
壁掛洗面器:L210C／壁掛手洗器:LSES870系	
パブリック用折りたたみシート:EWC500R系／フック:YKH52AR	